

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国歴史教育研究協議会

(代表者 南 和男 会員数 約16,200人)

T E L 0422-51-4554

大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト（以下共通テストと略）が4年目を迎えたとともに、平成23年告示の学習指導要領に基づく最後のテストとなり、平成9年以来続いた「世界史A」「世界史B」という世界史の2科目体制も今年度で最後となった。次年度からは、共通科目としての「歴史総合」と、「世界史探究」という2科目で世界史分野が出題されることとなり、共通テスト問題作成方針（以下「問題作成方針」とする）がより反映された問題作成がなされるものと推察する。本稿では、今までの「世界史A」「世界史B」を振り返るとともに、「歴史総合」と「世界史探究」への期待と要望を述べていきたい。

1の「はじめに」では令和6年度共通テスト追・再試験「世界史A」と「世界史B」の全般的な概略について、2の「試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価」では問題の内容・程度・設問数・配点・形式などの科目別の意見や要望について、3の「総評・まとめ」では総括的な評価、4の「今後の共通テストへの要望」では全体的な要望について述べる。

1 前 文

今年度の共通テスト「世界史A」と「世界史B」追・再試験問題の分析を終えてみて、昨年同様問題の内容やレベルともに教科書に準拠しており、日常の授業で対応できる内容になっており、共通テストとして極めて妥当であると考え。出題形式に関しても、設問文だけで答えが導き出せる「基礎的な知識及び技能」に偏った出題を脱却しようという試みが見られることに敬意を表したい。しかしながら、この4年間の共通テスト問題の検討を通じて、いくつかの課題もまた見えてきた。マーク式という制約上、思考力・判断力はともかくも、表現力を直接問う問題作成は難しいかもしれない。

一方で、新しい可能性も見えてきた。学習指導要領の地理歴史科の目標は、「我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う」とあり、「世界史A」の目標は、「近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」とある。また、「世界史B」は、「世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」とある。

今回の問題作成方針にある「歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては、事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題

などを含めて検討する」という視点が、実際の問題作成においてどのように反映されているかということについて、大いに期待するところであり、リード文やそれに付属する図表を精読することでしか解けない出題が今後増えていくことによって、知識・理解だけでなく資料活用能力を見る設問も増加し、単なる暗記物に終わらない高等学校世界史の本格的な授業が高等学校の現場で実現できることを期待している私たちから、共通テストが大学入試問題の一方の頂点に立つべく、更なる御検討をお願いする次第である。

以下、今年度の「世界史A」と「世界史B」の共通テスト追・再試験問題について、限られた紙面の中ではあるが、今後の御検討の一助になることを期待して、本協議会の意見と評価を記す。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

(1) 「世界史A」について

大問数4問、小問数30問構成、試験時間は60分間で、配点は100点満点である。出題を正解の選択肢を基に判断すると（以下同じ）、問題の出題形式における内訳は、以下のとおりである。正文選択問題が13問、誤文選択問題が2問、2文正誤問題が4問（うち2問は地図との組合せ）、3文正誤問題が1問、空所補充問題が3問（空所二つを補充する問題が2問、空所三つを補充する問題が1問）、空所補充と正文選択を組み合わせる問題が5問（空所に文章が入る問題が1問）、年号・年代に関する問題が2問、単純な地図問題は見られなかった。上記の問題のうち、文字資料から読み取る問題が5問、リード文から読み取る問題が4問、統計や数値データから読み取る問題が2問出題、地図が関係する問題は3問出題された。正文選択問題が昨年度の9問から13問と増加傾向であるが、その分教科書では扱われない資料やデータを読み取り、既習事項と組み合わせる思考力・判断力・表現力等を問おうとする問題はしっかりと出題されていた。また、リード文と数値の読み取りを組み合わせた問題など、一口に分類できない多様な問題も見られた。

出題範囲（分野や時期）について、分野別の出題は政治・外交史25問、社会経済史が3問、文化史が2問、解答が複数分野にまたがる出題は見られなかった。出題時期に関しては、古代史が1問、中世史が3問、近世史（15～17世紀）が4問、近代史（18～19世紀）が9問、現代史（20世紀以降）が13問、うち戦後史が9問である。「世界史A」の目標にある「近現代史を中心とする世界の歴史」という観点からみると、やや戦後史に偏りがあるが近現代史が大きな割合を占めているため、妥当である。また、21世紀に関わる出題としてイラク戦争が選択肢に含まれる問題が出題された。地域別にみると、ヨーロッパ史とアジア史がともに12問と多くの割合を占め、複数地域に関わる問題は6問出題され、アメリカ史、アフリカ史はここから出題された。中南米から1問、オセアニアに関する問題は出題されず、若干偏った出題傾向となった。

第1問 世界史における都市について

Aはマラッカに関する会話文からの出題

問1 正文選択問題。基本的な知識と会話文の読み取りで解答可能。

問2 正文選択問題。現在のマラッカの帰属についてはほとんどの教科書に記載されていないが、地図から類推が可能だと思われる。

問3 会話文を参考に、登場人物がまとめた三つのメモの正誤の組合せを答える問題。会話文とメモをよく読み、考えながら正答にたどり着ける良問。

Bはウラジヴォストークに関する会話文からの出題

問4 空欄に入る語句と文の正誤について、正しい組合せを選択する問題。基本的な知識で答えることができる。

問5 正文選択問題。会話文の中に大きなヒントがあり、文章を読み込めば基本的な知識で

答えることができる。

問6 表中の三つの空欄に入る語句の正しい組合せを選ぶ問題。会話文の中に大きなヒントがあり、文章を読み表と照らし合わせて答えることができる。

Cはベルリンに関するメモからの出題

問7 写真と文を用いた年代整序問題。それぞれの年代は推測しやすく、答えやすい問題。

問8 二つの文の正誤の組合せを問う問題。メモの読み込みと基本的な知識で答えることができる。

問9 メモを参考に、ベルリンの歴史について述べた文から適切な選択肢を選択する問題。アインシュタインについては、一部の教科書に記載がなく、中学校の理科でも扱いにばらつきがあるようだ。一般常識として解答可能かもしれないが、問題としての妥当性には疑問が残る。

第2問 人類の経済活動とその評価の変化について

Aは中世ヨーロッパの農業とその評価についての会話文からの出題

問1 空欄に入る語句と文の正誤について、正しい組み合わせを選択する問題。三圃制については一部の教科書に記載がないものの、消去法で解答可能である。文の正誤については、会話文の読み取りから容易に答えることができる。

問2 正文選択問題。一部の選択肢に教科書に記載がない語句が含まれているものの、消去法で解答可能。

Bは蘇州についての文章からの出題

問3 地図と文を組み合わせた正誤問題。明代の穀倉地帯の移動とその背景については、記載されていない教科書が多いが、文章を読み込めば解答可能。社会経済史と地理を組み合わせた問題で、難易度は高い。

問4 誤文選択問題。バグダードの位置さえわかれば推測可能。

問5 正文選択問題。文章をよく読めば解答可能。

Cはアメリカ合衆国の通商政策に関するメモと会話文からの出題

問6 空欄に入る語句と文の正誤について、正しい組合せを選択する問題。一部記載がない教科書があるが、消去法で解答可能である。文の正誤についてはメモの読み取りで解答可能。

問7 正文選択問題。時代と国、地域が指定されているため選択肢をしぼった後、消去法で解答可能である。

問8 正文選択問題。選択肢に一部の教科書に記載がないものがあるが、会話文を読み取れば解答可能である。

第3問 世界史上の国際関係の変化について

Aはネルーの書簡の抜粋と文章からの出題

問1 空欄に入る語句の正誤について、正しい組合せを選択する問題。基本的な知識で解答可能。

問2 年代整序問題。中印国境紛争については記載のない教科書が多いが、文章に年代が示されており、基本的な知識で解答可能。

Bはポーランドの歴史について述べた二人の歴史研究者による文章からの出題

問3 正文選択問題。第二次世界大戦時のポーランドの領土については、独ソ戦の開始により全土がドイツに占領されたことが類推可能である。

問4 空欄に入る文と第二次世界大戦後のポーランドについての文の正誤について、正しい

組合せを選択する問題。資料をよく読み取れば解答可能。

問5 正文選択問題。選択肢に教科書に記載されていないものがあるが、東欧諸国がコメロンに加盟したことはどの教科書にも記載されており妥当な問題である。

Cは植民地総督の数の変化に関する文章からの出題

問6 正文選択問題。選択肢に教科書に記載されていないものもあるが、ブラッシーの戦いは触れられており妥当。

問7 正文選択問題。時代が限定されており、パナマについては多くの教科書に記載がないが、正解は基本的な知識で解答可能である。

問8 地図と文の正誤について、正しい組合せを選択する問題。基本的な知識で解答可能。

第4問 世界史上の政治変革について

Aは大韓民国についての文章からの出題

問1 正文選択問題。基本的な知識で解答可能。

問2 二つの文の正誤の組み合わせを問う問題。資料の読み取りと基本的な知識で解答可能。

Bは16世紀に書かれた『パリー市民の日記』の抜粋からの出題

問3 正文選択問題。資料から時代は限定することができるものの、選択肢に教科書巻末の年表にしか記載がないものがあり、難易度が高い。

問4 空欄に入る語句と文の正誤について、正しい組合せを選択する問題。基本的な知識と資料の読み取り、年代からの推測で解答可能。

問5 二つの文の正誤の組合せを問う問題。外交革命について記載のない教科書があるため難易度が高い。

(2) 「世界史B」について

大問数5問、小問数33問構成、試験時間は60分間で、配点は100点満点であり、昨年度と同様であった。

出題を正解の選択肢を基に判断すると(以下同じ)、問題の出題形式における内訳は、以下のとおりである。正文選択問題が13問、空所補充問題が7問、空所補充と正文選択とを組み合わせる問題が2問、正誤判断問題が6問(うち、資料やリード文から読み取った内容をもとに判断する問題が4問)、地図を活用した問題が1問、年代整序問題が1問、リード文や資料から読み取った内容をもとに選択する問題が3問出題され、昨年度と大差はない。

出題範囲(分野や時期)について、分野別の出題は政治・外交史が27問、社会経済史が4問、文化史が1問、複数分野に関わるものが1問である。昨年度と同様に政治・外交史に大きく偏っていた。出題時期に関しては、古代史が3問、中世史が8問、近世史(15～17世紀)が3問、近代史(18～19世紀)が9問、現代史(20世紀以降)が10問、うち戦後史が3問である。昨年度と比較すると、近世史がやや減り、中世史・現代史からの出題が増加した。地域別にみると、東・内陸アジアから12問と一番多く、西欧・北米から11問、東欧・ロシアから2問、南・東南アジアから2問、西アジア・アフリカから3問、中南米・オセアニアから1問、複数地域に関わる問題が2問であり、昨年度と比較すると、東欧・ロシアからの出題が減り、東・内陸アジアからの出題が増加した。問題作成方針には、「事象に関する深い理解に基づいて、例えば教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。」と記載がある。初見の資料から必要な情報を読み取り、授業で学んだ知識と関連付けて考えさせる問題や会話文から読み取った内容をもとに知識を土台として考えさせる問題など、問題作成方針に即

した思考力や判断力を評価する出題が多くみられる。また、昨年度には見られなかった時代や地域を超えて特定のテーマについて考察する問題についても、大問5のBに見られ、全体的に問題作成方針に即した問題が多い印象を受けた。問題全体の難易度は、基礎的な学習の到達度を幅広く問う標準的な問題となっている。

第1問 「世界史上の宗教の役割」

Aは、清代の絵画についての会話文をもとにした出題。

問1 空欄に入る人物を考え、清の政策として正しい文を選択する問題。基本的な知識を問う。

問2 絵画や会話文から読み取り、空欄に入る語句を選択する問題。

問3 清代に藩部であった地域の歴史について正しい文を選択する問題。基本的な知識を問う。

Bは、ある同一の戦争を題材に二つの資料もとにした出題。

問4 二つの資料の題材となっている戦争(三十年戦争)について正しい文を選択する問題。基本的な知識を問う。

問5 空欄に入る家柄(ハプスブルク家)出身の君主について正しい文を選択する問題。基本的な知識を問う。

問6 各資料の著者の主張をまとめ、その根拠となる歴史的事象が書かれた文の正誤を判断する問題。資料を読み取り判断することが求められているが、知識のみで解答が可能でもある。

Cは、パイシー=ヒレンドルスキという人物の著作の一部をもとにした出題。

問7 ブルガリア人としての民族意識について、正誤を組み合わせる問題。リード文から読み取る必要があり、知識・理解を土台として、思考力が問われている良問である。

問8 空欄に入る条約(ベルリン条約)について述べた文と空欄に入る語句をそれぞれ選択して組み合わせる問題。基本的な知識を問う。

第2問 「欧米列強の進出を受けたアジアやラテンアメリカ」

Aは、ベトナム戦争に関する文章をもとにした出題。

問1 1970年代初頭における出来事について、正しい文を選択する問題。基本的な知識を問う。

問2 ベトナムの歴史について、正しい文を選択する問題。基本的な知識を問う。

問3 仮説中の二つの空欄に適する語句を選択する問題。文章と仮説とを比較して読む必要があり、知識・理解を土台として、思考力が問われている良問である。

Bは、メキシコの歴史に関する授業場面をもとにした出題。

問4 二人の生徒の発言の正誤を判断する問題。表から読み取るのみならず、知識・理解を土台として判断するため良問である。しかし、「なお、生徒の発言には誤りを含む場合がある。」と太字で記載する必要はあったのか。また、会話文中の先生の発言「では、発表内容が正しいかどうか、後ほど確認しましょう。ちなみに、…」は自然ではないため、生徒の発言の正誤を判断するのではなく、他の問題と同様にメモの形式で正誤を判断させる問題の方がよいと考える。

問5 三つの絵画に関する年代整序問題。解説文もあるため、単純に知識を問う問題。

第3問 「近現代の世界の多様な統治体制」

Aは、台湾に関する会話文をもとにした出題。

問1 民国元年(1912年)より後に起こった出来事として正しい文を選択する問題。基本的

な知識を問う。

問2 空欄に入る語句と20世紀後半のアジアの民主化について述べた文をそれぞれ選択して組み合わせる問題。消去法で解答ができるが、選択肢の「光州事件」は記載されている教科書が三つしかない。

問3 二つのメモの正誤を判断する問題。会話文とグラフから必要な情報を読み取った上で、知識・理解も土台として判断する必要がある、良問である。しかし、2000年代の歴史も含まれるため日本史で出題される年代と比較すると妥当とは言い難い。

Bは、アフリカ南部の歴史の授業場面をもとにした出題。

問4 イギリスの植民地支配について述べた文として正しいものを選択する問題。基本的な知識を問う。

問5 空欄に入る地域名と文章中の空欄に入る文をそれぞれ選択する問題。会話文の内容から情報を読み取った上で、知識・理解を土台に解答するため良問である。

第4問 「戦争が政治・文化に与えた影響」

Aは、十字軍遠征の拠点の一つエグモルトを訪ねた大学生の会話文をもとにした出題。

問1 西アジアでクーデタにより誕生した新王朝について、正しい文を選択する問題。基本的な知識を問う。

問2 ジョワンヴィルが書いた文書の内容について正しい文を選択する問題。単純な知識を問う問題ではなく、資料から情報を読み取る力が求められおり、良問である。

問3 資料に登場する王(ルイ9世)の事績とこの王が主導した十字軍の経路を組み合わせた問題。知識・理解を土台として、会話文から情報を読み取った上で、地図を活用して解答するため、複数の思考・判断が問われた良問である。

Bは、『朝鮮王朝実録』を題材にした授業場面をもとにした出題。

問4 太祖(李成桂)の事績について正しい文を選択する問題。基本的な知識を問う。

問5 朝鮮王朝の実録が各地の山の中に保管されるようになったきっかけとして正しい文を選択する問題。会話文からそのきっかけを読み取る問題であり、思考力を問う。

問6 高宗の事績と文章中の空欄に入る文をそれぞれ選択する問題。基本的な知識を問う。

Cは、第一次世界大戦に関する会話文をもとにした出題。

問7 空欄に入る文と語句を組み合わせた問題。基本的な知識を問う。ただし、空欄 の選択肢に「マスケット銃」とあるが、記載されている教科書がなく選択肢として妥当か疑わしい。

問8 平和構築について述べた文として正しいものを選択する問題。基本的な知識を問う。

問9 第一次世界大戦の特徴の二文正誤問題。「前の文章を参考にしつつ」とあるが、知識のみで解答が可能である。

第5問 「世界史上における異なる社会や文化の接触」

Aは、万里の長城の関所の一つである居庸関での会話をもとにした出題。

問1 空欄に入る人物と文とを組み合わせた問題。人物は単純な知識を問うが、文は会話文から読み取る必要がある、知識と思考を組み合わせた良問である。

問2 空欄の王朝(南宋)について正しい文を選択する問題。基本的な知識を問う。

問3 三人の生徒がまとめたメモの正誤を判断する問題。知識・理解を土台として、会話文から情報を読み取る必要がある、知識と思考を組み合わせた良問である。

Bは、古代ローマ共和政に関する授業場面をもとにした出題。

問4 資料から読み取れる内容と古典期のアテネと共和政期のローマについて述べた文を正

しく組み合わせる問題。単純な知識のみならず、資料から情報を読み取る必要があり、知識と思考を組み合わせさせた良問である。

問5 アテネの民主政について述べた文として正しいものを選択する問題。基本的な知識を問う。

問6 二つの意見の空欄に適する文をそれぞれ選択する問題。古代ローマの共和政と第一共和政の相違点を述べており、問題作成基本方針に記載がある「時代を超えて特定のテーマについて考察したりする問題」に相応している。また、会話文から情報を読み取って解答する必要があり、知識と思考を組み合わせさせた問題でもあり、良問である。

3 総評・まとめ

(1) 「世界史 A」について

今年度の「世界史 A」は、単純な知識を問う問題が減少し、対話文やリード文の内容をよく読み取り、地図や表を組み合わせる思考力・判断力・表現力等を問おうとする問題が増加した。全体として、新課程での学習を意識した問題が昨年度よりも多く出題されていた。

一方で、本年も特定の教科書にしか掲載・記載のない事項が出題されている問題が散見された。「世界史 A」は各学校において、教科書を中心に授業を進めるため、いずれの教科書で学習を進めたとしても対応できうる問題設定でなくては平等性に欠ける。「世界史 B」とは異なる学習状況に鑑み、この点に関しては、改めてご配慮の上で問題を作成していただきたい。次年度からは「歴史総合」が試験科目になるが、「歴史総合」は「世界史 A」以上に教科書ごとの記述内容に大きな差がある。どの教科書で学習しても、受験者が公平に実力を発揮できる問題となるように期待する。

「世界史 A」の共通テストは今年度が最後となったが、今までの課題を改善しながらも、受験者の知識及び技能、思考力・判断力・表現力等を適切に図ることのできる非常にバランスの取れた出題であったと考えられる。問題作成にご尽力なされた方々に、心から感謝申し上げたい。

(2) 「世界史 B」について

問題の量については、2022年度の追・再試験は約 13,800 字、2023年度は約 13,500 字だったものが、本年度は約 15,500 字と問題文の分量が増加した。昨年度も同様の指摘をさせていただいたが、400 字詰め原稿用紙約 40 枚分の問題文を読み、「事象に関する深い理解に基づいて、例えば教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立てて、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を越えて特定のテーマについて考察したりする問題」を 33 問解答させることに対して、60 分間という試験時間が妥当であるのかご検討をいただきたい。また、追・再試験の方が本試験よりも文字分量が少ないという状況が妥当であるのか、さらに、本来ならば追・再試験の方が難易度が高くなるはずが、本試験に比べると単純な知識を問う問題が多かったという点は妥当であるのかについても出題者の見解を伺いたい。「歴史総合」・「世界史探究」の試作問題では、資料やリード文から読み取った情報をもとに解答する問題が大半であるが、単純に知識を問う問題も「世界史 B」・「世界史 A」と同様に一定数出題しないと、得点分布に偏りが生じることが懸念される。

「世界史 B」の共通テストは今年度が最後となったが、今までの課題を改善しながらも、受験者の知識及び技能、思考力・判断力・表現力等を適切に図ることのできる非常にバランスの取れた出題であったと考えられる。問題作成にご尽力なされた方々に、心から感謝申し上げたい。

4 今後の共通テストへの要望

来年度からいよいよ「歴史総合・世界史探究」の共通テストが始まることとなる。「世界史」については、試作問題を踏まえると「歴史総合・地理総合・公共」の「歴史総合」50点分のうちの25点分との共通問題と「世界史探究」の問題75点分の組合せで1科目となることが推察されるが、「歴史総合・日本史探究」と共通問題となる「歴史総合」の部分ともに、世界史分野と日本史分野のバランスを程よく出題していただきたい。特に「歴史総合」の「日本史探究」と従来の「日本史A」「日本史B」のように、1970年代以降の出題がほとんどなされないようにはしないでいただきたい。そのようなことがあれば、今まで以上に「世界史」と「日本史」の不正性が増すとともに、高等学校現場での「歴史総合」の授業では1970年代以降は扱わないような風潮、あるいは「歴史総合」を世界史分野と日本史分野に分けて「世界史探究」・「日本史探究」と一体化して従来の「世界史B」「日本史B」とかわらない授業を行う風潮が生じかねない（既にこのようなカリキュラムを組んでいる高等学校もあるときく）ということを提言しておく。このような意味において、共通テストは「歴史総合」の命運を握っているということを理解していただきたい。さらに、これは前年度も指摘していることだが、「歴史総合」の教科書は世界史の教科書以上に記述内容の差が大きくなっているため、学んだ教科書によって有利・不利が生じることをないようにしていただきたい。合わせて、全体の問題量について、受験者が「思考」「判断」する時間が確保できるように配慮していただき、得点分布が正規分布に近づくようにしていただきたい。高等学校での「歴史総合」「世界史探究」での学習内容が反映され、歴史を学習することの楽しさを感じられるような問題作成を期待している。

最後に、今まで「世界史A」「世界史B」の問題作成にあられた委員の皆様へ感謝を申し上げます。